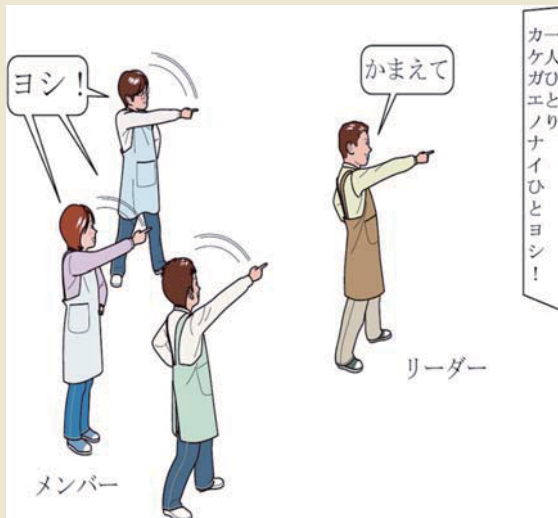


指差し唱和で一体感・連帯感づくり

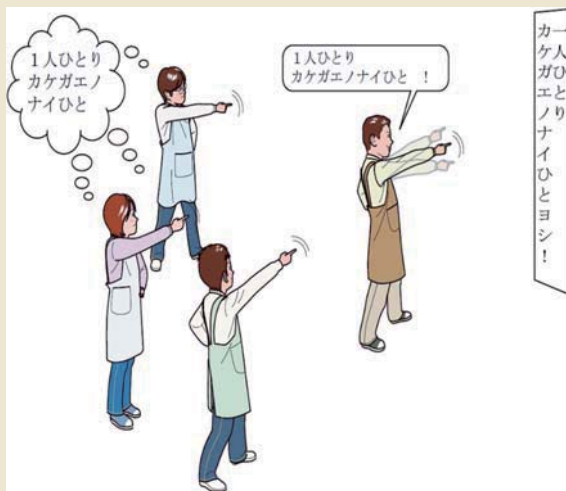
「指差し唱和」は、全員でスローガンなどの対象を指差し、唱和することで仲間同士の一体感・連帯感を高める手法です。一般的に、朝礼や終礼時にスローガンを唱和したり、KYTの確認項目を唱和して実行を誓い合います。

「タッチ・アンド・コール」は指差し唱和の一種で、メンバー全員で手を重ね合わせたりして触れ合いながら行います。仕事にかかる前やKYTの締めくくりなどで実施します。全員のスキンシップで行うこの手法は、メンバーの一体感・連帯感を盛り上げ、チームワークづくりに役立つ手法です。

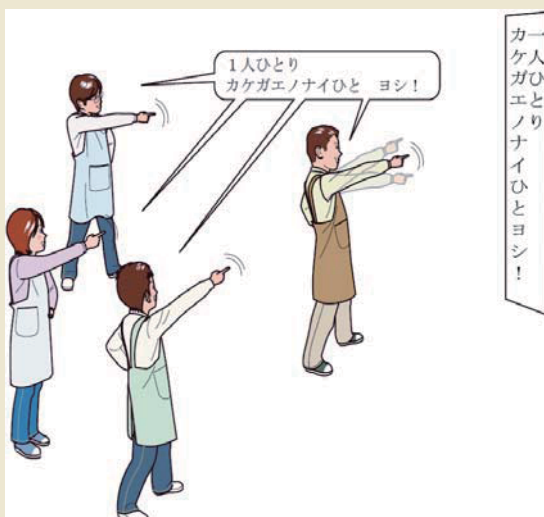
いずれも、単独の安全確認行動として行う「指差し呼称」とはねらいが異なります。



- ・左手は腰に
- ・右手で対象を指差す



- ・リーダーは、一文字一文字、目と指で追いながら読み上げる
- ・メンバーは、リーダーが読み上げている文字を声に出さずに目と指で追う



- ・リーダーの「ヨシッ！」を合図に
- ・全員で声をそろえて唱和する

タッチ・アンド・コールのやり方

指差し唱和と同様、リーダーの「～ ヨシ！」に続いて、全員で「～ ヨシ！」と指差し唱和をします。

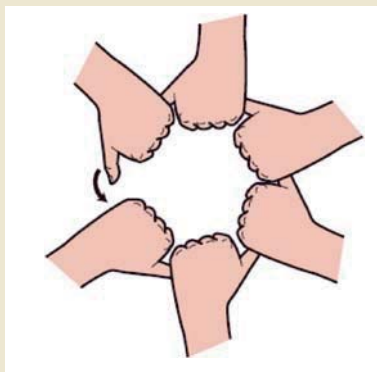
KYTの研修会で行っているタッチ・アンド・コールの型の例を以下に3種類示します。チームの人数に応じて3種類を使い分ければよいでしょう。

①タッチ型（7～8人以上）



- ・円陣をつくる
- ・左隣りの人の右肩に左手を置く
- ・右手人差し指で円陣の中央を指す

②リング型（5～6人）



- ・円陣をつくる
- ・左手で左隣りの人の親指を握り合いリングをつくる
- ・右手人差し指でリングの中央を指す

③手重ね型（4～5人以下）



- ・円陣をつくる
- ・リーダーは左手を上向きにして中央に差し出す
- ・メンバーはその上に左手を下向きにして重ね合わせる
- ・右手人差し指で重ね合わせた左手を指す